

# 출장보고서

## 1. 출장 개요

1. 출장건명 : “제4회 아시아지역정책”에 관한 국제심포지엄 주제발표
2. 출장목적 : 일본 다카사키경제대학(高崎經濟大學)이 주최하는 제4회 아시아지역정책에 관한 국제심포지엄에 참가, 한국의 농업·농촌문제와 정책전환에 관련한 주제발표 및 토론
3. 출장지역 : 일본 군마현(群馬縣) 다카사키시(高崎市)
4. 출장기간 : 2008. 3. 4(화)~7(금) 3박4일

## 5. 출 장 자

부서명(기관명)	직 급	성 명
농업구조경영연구센터	연구위원	김 태 곤

## 6. 출장일정

일 자	시 간	주요 활동내용	비고
3월 4일(화)	09:30~11:30 12:00~14:00	출국(김포~하네다) 이동(하네다~다카사키)	
3월 5일(수)	09:00~18:00	제4회 아시아지역정책 심포 개회사, 주제발표 및 토론 (1분과) 농업·농촌진흥의 과제 (2분과) 대학과 지역의 연대 (3분과) 지역의 환경정책 과제 (4분과) 제조업 발전과 지역정책	
3월 6일(목)	09:00~17:00	현지시찰 다카사키시장 방문 요시이정(吉井町) 시찰	
3월 7일(금)	09:00~11:00 13:20~15:20	이동(다카사키~하네다) 귀국(하네다~김포)	

## 7. 방문기관 및 면담자

吉田俊幸 다카사키경제대학 학장  
村山元展 다카사키경제대학 교수  
河辺俊雄 다카사키경제대학 교수  
大泉一貫 미야기대학 교수, 일본지역정책학회 회장  
張 安明 농산어촌문화협회 일중농업교류부 연구원  
松浦幸雄 다카사키 시장  
座間愛知 다카사키 부시장

何 俊仕 중국 심양농업대학 교수  
遲 道才 중국 심양농업대학 교수  
呂 杰 중국 심양농업대학 교수  
金 沙蔓 중국 陝西省委黨校 부주임  
李 宗强 중국 陝西省委黨校 부주임  
鄭 志風 중국 陝西省국제교류중심 부주임

## II. 출장 결과

### 1. 주제발표 자료

第4回 アジア地域政策国際シンポ  
高崎経済大学/2008. 3. 5

# 韓国農業における 所得問題と組織経営化

金泰坤 韓国農村經濟研究院

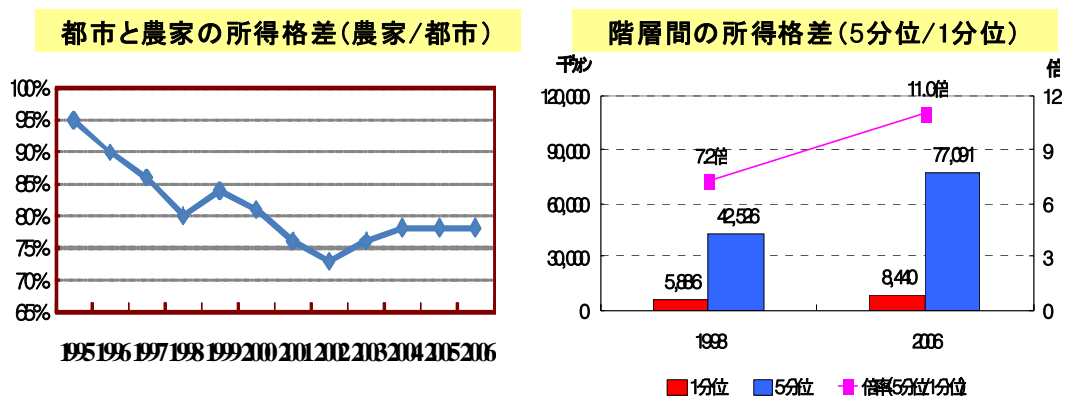
**KREI** 한국농촌경제연구원  
Korea Rural Economic Institute

## 目次

1. 農家の所得格差の拡大：二つの格差
2. 背景：零細規模、規模化の遅れ、耕地分散
3. 新たな動き：政策転換と組織化事例
4. 課題

## 1. 農家の所得格差の拡大：二つの格差

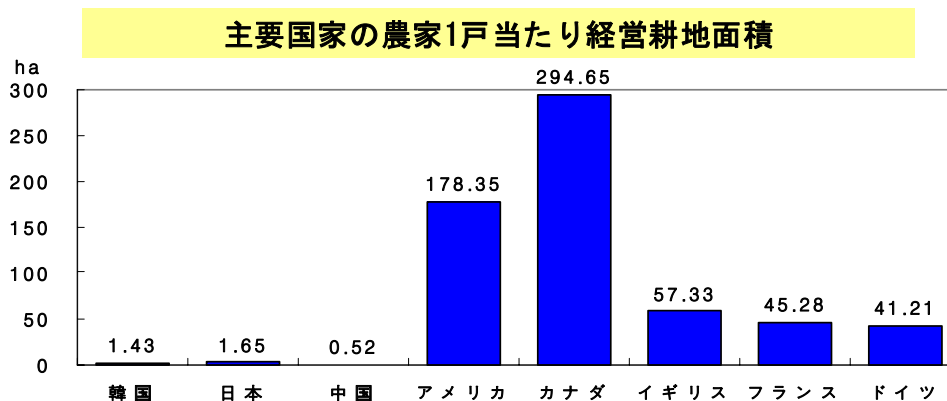
- 都市と農家の所得格差は、2006年農家は都市世帯の78%
- 階層間の所得格差(5分位/1分位)は、1998年7.2倍から2006年11.0倍へ



資料：統計？、「都市家計年報」、「農家??統計」

## 2. 背景：規模の零細性

- 韓国、日本、中国等の東アジアの農業は、経営規模の零細性
- 結果として食料自給率の低位、所得格差の拡大
- 課題は、規模拡大か組織化

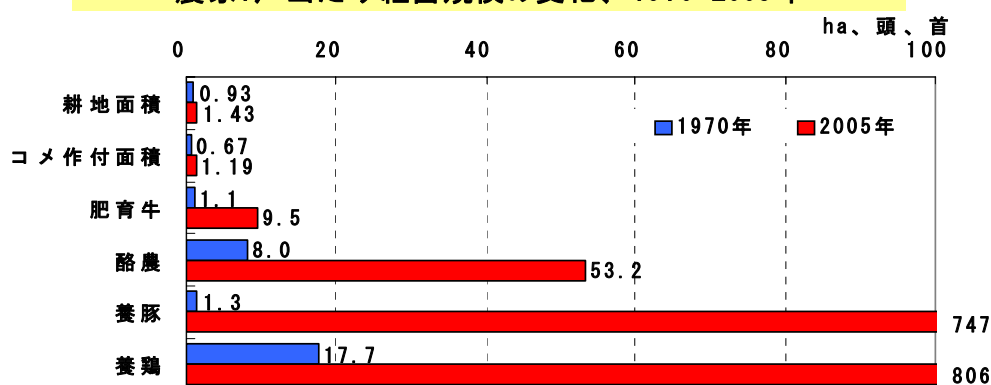


資料：韓国「農林統計年報」2006、日本「農業白書付属統計」2006、中国「中国統計摘要」2005  
 미국 2002 Censusu of Agriculture、EU Agriculture in the EU 2005  
 注：韓国、日本は2005年、中国は2004年、アメリカは2002年、EUは2003年

## 2. 背景：土地利用型農業の規模拡大の遅滞

- 施設型農業は規模拡大が進行、土地利用型は遅れ
- 1970年から2005年までの経営規模は
  - 酪農は5.7倍、養豚は56.5倍、養鶏は44.5倍と拡大
  - 経営耕地面積は1.5倍、コメ農業1.8倍に過ぎない。

農家1戸当たり経営規模の変化、1970-2005年

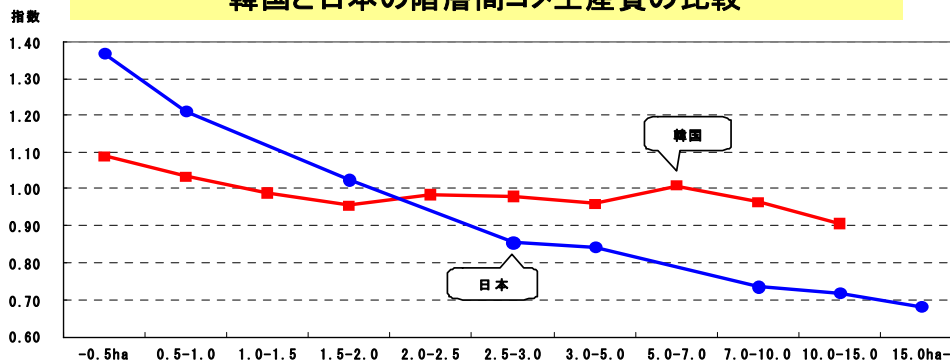


資料：農林部、「農林業主要統計」から作成

## 2. 背景：階層間のコメ生産費格差の現状

- コメ農業の階層間生産費格差(最上位階層/最下位階層)
  - 日本は50.1%であるが、韓国は16.7%に過ぎない。
  - 要因のうち一つは、農地分散
- 経営耕地規模の拡大に従う‘農地団地化’が課題
  - 農地分散問題の解決のため地縁的組織経営へと転換

韓国と日本の階層間コメ生産費の比較



資料：韓国、「農産物生産費統計」、日本、「農業経営調査統計」

注：平均生産費に対比した指数。韓国は2006年産，日本は2005年産

### 3. 新たな動き：政策転換と組織化事例

---

#### ■ 政策の転換

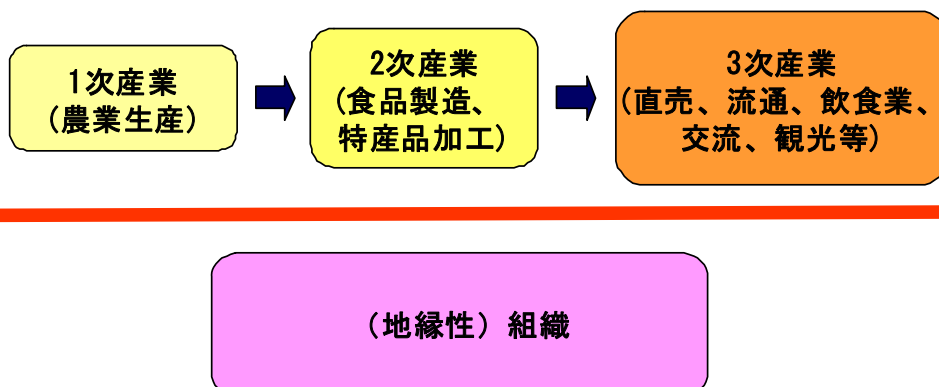
- 新政権の農政は、従来の規模化から‘農業の2次・3次産業化’への転換
- 日本の6次産業化、あるいは農商工連携、中国の農業の産業化と類似した概念

### 3. 新たな動き：政策転換と組織化事例

---

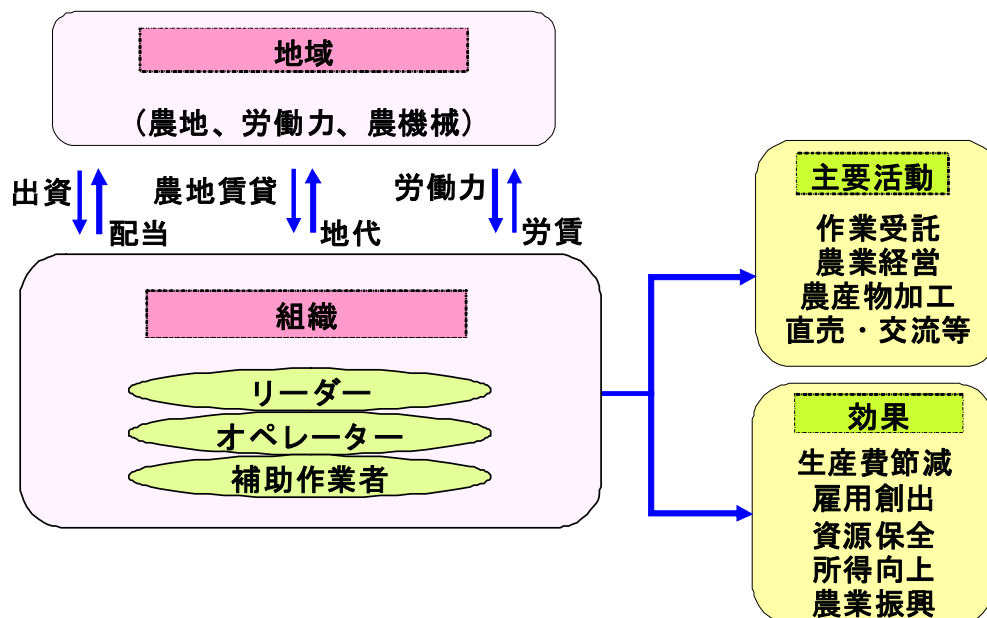
#### ■ 農業の2次?3次産業化の概念

- 多角経営で、付加価値や雇用機会を拡大させ、農業振興や地域活性化に役に立つ一つのモデル
- 組織経営は、個別経営より多角経営のメリットが高い。



### 3. 新たな動き : 政策転換と組織化事例

#### ■ 組織化の概念



### 3. 新たな動き : 政策転換と組織化事例

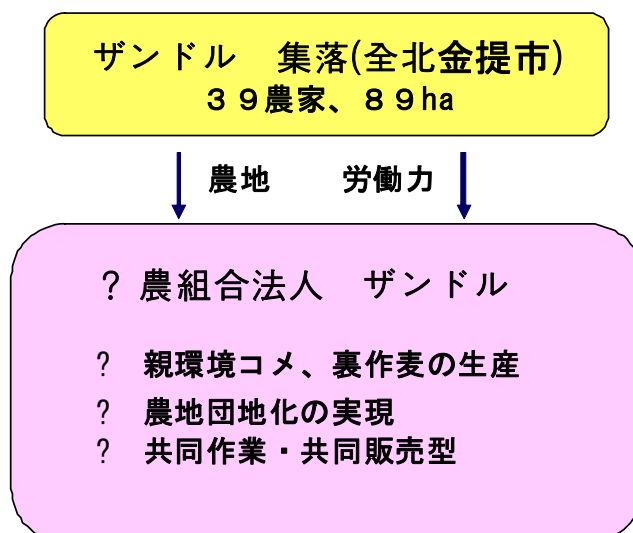
#### ■ 組織化の事例

- 第1 : 農家同士の組織化
  - 営農組合法人 ザンドル
- 第2 : 一般企業と農家の組織化
  - 営農組合法人 ナツオ
- 第3 : 農協と農家の組織化
  - 淳昌農協の直営農場

### 3. 新たな動き：組織化事例(1)

---

#### ■ 農家同士の組織化：営農組合法人 ザンドル



### 3. 新たな動き：組織化事例(1)

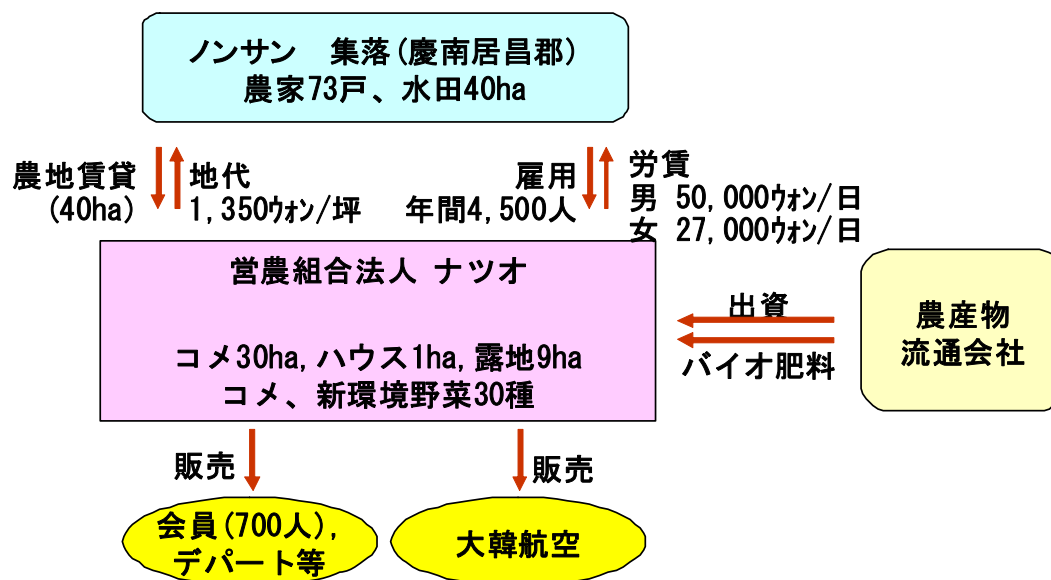
---

#### ■ 特徴

- 共同精算でリスク分散
- 隣接集落へと参加者が拡大
- 有機畜産を導入し耕畜循環型農業、多角経営を計画
- 経営の統合が課題

### 3. 新たな動き：組織化事例(2)

#### ■ 一般企業と農家の組織化：営農組合法人 ナツオ



### 3. 新たな動き：組織化事例(2)

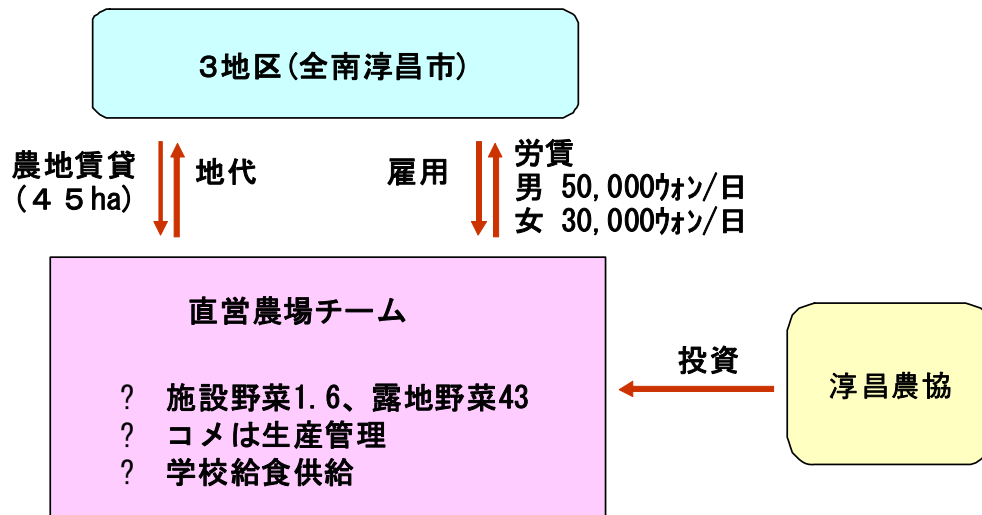
#### ■ 特徴

- 企業の農業進入の事例、販売力を活用
- 農地は15年間の長期貸し借りで団地化実現
- 集落は余剰労働力を野菜等に集中、所得向上
- 企業の撤退が問題

### 3. 新たな動き：組織化事例(3)

---

#### ■ 農協と農家の組織化：淳昌農協



### 3. 新たな動き：組織化事例(3)

---

#### ■ 特徴

- 農協による中山間地域での地域農業の振興が目的
- 2007年から経営、初年度は赤字であるが地域全体は以前に比べ所得増加
- 学校給食供給で地産地消を実現
- 大規模農家との対立、組合員との理解調整が課題

## 4. 課題

---

- ① 経営統合や多角経営の実現
- ② 企業との組織化において理解調整
  - 垂直的統合か水平的統合か
- ③ 貸し借りや団地化を支援する農地制度の改善
  - 地代の引き上げ、労働報酬の増加
- ④ 地域農業の振興
  - 基盤整備・水田中心、畑作の振興
- ⑤ 地域リーダーの育成

(以上)

## 2. 현지시찰

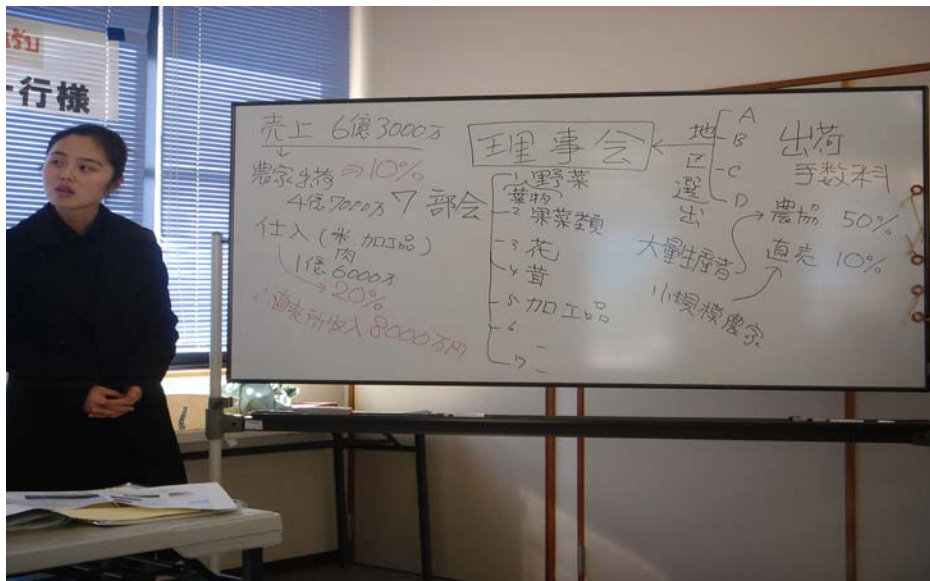
### (1) 다카사키시청

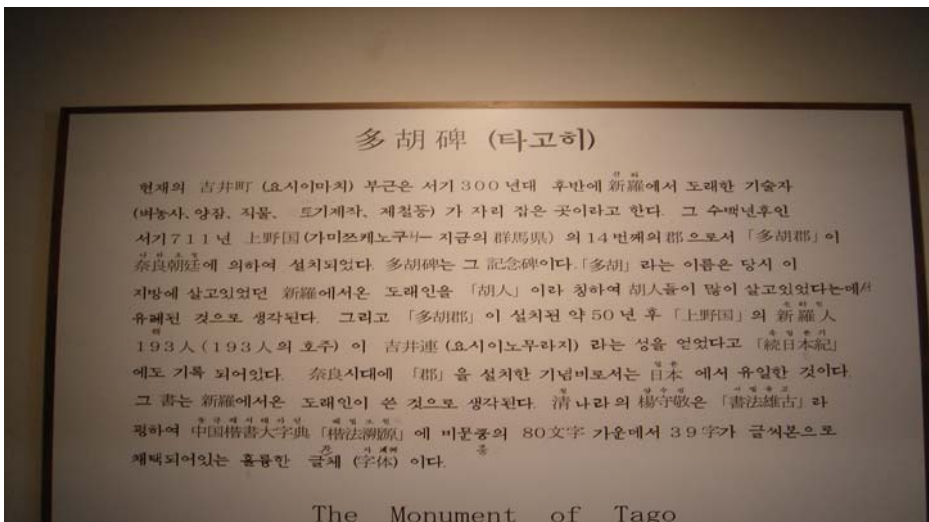
- 다카사키시 개황
- 다카사키시의 지역정책

### (2) 요시이정(吉井町)

- 요시이정의 개황
- 요시이정의 박물관
- 요시이정과 신라와의 교류활동, 서기 300년대 신라에서의 도작·잠업·직물·도예·제철 등의 기술 전파
- 요시이물산센터
  - 인접 지역의 농가들이 생산한 농산물, 가공품들을 농가들의 직접 판매를 통하여 고소득 확보하는 사례
  - 시설은 국가, 현, 정의 보조사업으로 설치, 운영은 '농가'(법인) 담당

- 농가조직 : 법인화, 대표는 농협출신, 출자자 211명, 1주 50,000엔, 토지는 町이 제공, 가입탈퇴는 자유
- 가격설정은 법인인 상한·하한 설정, 생산자가 가격결정
- 법인은 수수료 수입, 수수료는 판매금액의 10%(다른 지역의 절반 수준), 2007년도 매출액 6억 3,000만엔, 내역은 회원 판매금액 4억 7,000만엔, 비회원 납품 1억 6,000만엔(쌀, 가공품, 육류 등으로 회원판매 부족분은 인근 생산자의 납품으로 충당)
- 1인 평균 판매금액 300만엔, 최고 2,000만엔





(이상)